

# 保健室だより

2021年 夏号 

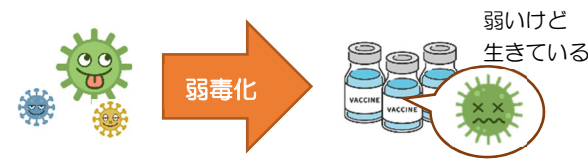


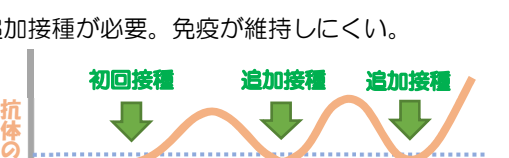

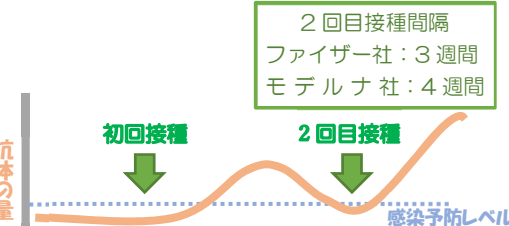
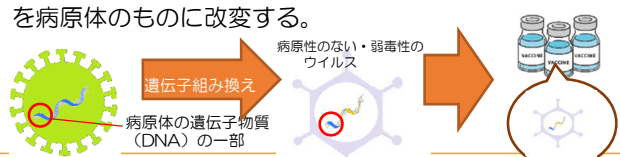
新型コロナ感染症が終息しないまま2回目の夏をむかえました。感染予防をしつつ熱中症には十分に注意してください。新型コロナワクチン接種が高齢者対象から始まり、少しずつ接種対象が拡大してきています。今後、希望される皆さんにも接種の機会が来るので、ワクチンの特性を理解しておきましょう。

一般に、感染症にかかると、原因となる病原体（ウイルスや細菌）に対する“免疫”（抵抗力）ができます。免疫ができることで、その感染症に再びかかりにくくなったり、かかっても症状が軽くなったりするようになります。予防接種とは、このような体のしくみを使って病気に対する免疫をつけたり、免疫を強くしたりするために、ワクチンを接種することをいいます。

ワクチンにはさまざまな種類があり、それぞれにメリット・デメリットがあります。知識として持っておくことは大切です。

## ワクチンの種類と特徴



	製造方法	特徴
生ワクチン	<p>病原体の毒素を弱めて病原性をなくしたものを原材料としてつくる。 ※麻疹・風疹・水ぼうそう・ポリオ・BCG など</p> 	<p>自然感染したときと同等の免疫がつき、接種の回数は少なく済む。 毒素を弱めているとはいえ、生きた病原体が体内で徐々に増えるので、自然感染と同じような軽い症状が出ることもある。</p> 
不活化ワクチン	<p>病原体の感染する能力を失わせた（不活化・殺菌）ものを原材料としてつくる。 ※インフルエンザ・B型肝炎・破傷風など</p> 	<p>生ワクチンと比べて副反応が少ない。 自然感染や生ワクチンに比べて生み出される免疫力が弱いため、1回の摂取だけでは十分ではなく、何回か追加接種が必要。免疫が維持しにくい。</p> 
mRNAワクチン	<p>病原体を構成するタンパク質の設計図（mRNA）を脂質粒子でコーティングしてつくる。 人工的に合成したウイルス遺伝子を使ったワクチン。 ※新型コロナなど 遺伝子情報を解析 mRNAを人工複製</p> 	<p>開発時間が短縮できる。 不活化ワクチンと同様に、数回接種が必要。 不安定なため温度管理が必要。 コーティングした脂質などへの副反応の可能性。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>2回目接種間隔 ファイザー社：3週間 モデルナ社：4週間</p> </div> 
ウイルスベクターワクチン	<p>別のウイルスを使って病原体とたたかうワクチン。 ヒトに対して病原性のない、または弱毒性のウイルスに対し遺伝子組み換え技術を使い、ウイルス遺伝子情報の一部を病原体のものに改変する。</p> 	<p>開発時間が短縮できる。 保存温度が2～8℃と管理しやすい。 改変したウイルスそのものに免疫を持ってしまう可能性。 改変したウイルスの感染・副反応の可能性。 mRNAワクチンと同様に複数回接種が必要。</p>

日本で薬事承認され、予防接種法に基づいて接種できるワクチンは現在のところ、ファイザー社とモデルナ社さらに追加されたアストラゼネカ社のワクチンです。ワクチンの製造方法によって接種間隔や副反応などの注意点等が違いますので、ワクチン情報を把握しておくのも重要です。

ファイザーとモデルナのワクチンはどちらもmRNA ワクチンで、2回以上の接種が必要です。アストラゼネカ社のワクチンは、ウィルスベクターワクチンで、こちらも2回以上の接種が必要ですが、一回目と二回目の間隔は4～12週間となっています。

**ファイザー**  
※3週間の間隔で2回接種

**モデルナ**  
※4週間の間隔で2回接種

**接種後すぐに現れる可能性のある症状（投与直後～30分以内に発症しやすい）**

**アナフィラキシー**  
※薬や食物が体に入ってから短時間で起こることのあるアレルギー反応

**血管迷走神経反射**  
※ワクチン接種に対する緊張や強い痛みをきっかけに立ちくらみがしたり、血の気が引いて気を失うことがあります。

**接種後、数日以内に現れる可能性のある症状**

発現割合	症 状	
	コミナティ(ファイザー社)	モデルナ(武田薬品)
50%以上	接種部位の痛み、疲労、頭痛	接種部位の痛み、疲労、頭痛、筋肉痛
10-50%	筋肉痛、悪寒、関節痛、下痢、発熱、接種部位の腫れ	関節痛、悪寒、吐き気・嘔吐、リンパ節症、発熱、接種部位の腫れ、発赤・紅斑
1-10%	吐き気、嘔吐	接種後7日目以降の接種部位の痛みなど(※)

コミナティ添付文書、COVID-19 ワクチンモデルナ添付文書より

(※) 接種部位の痛みや腫れ、紅斑

ほとんどの場合、経過ごとに症状は落ち着いてきますが、接種後症状について心配なことがある場合は、ワクチンを受けた医療機関やかかりつけ医、市町村・都道府県の窓口に相談してください。厚生労働省のHPにも詳しい情報がありますので参考にしてください。

新型コロナワクチンの職域接種についてですが、本学においても実施いたします。予約期間・予約方法、実施日時・場所などは、大学ポータルシステム“S-Navi!”で確認してください。S-Navi! 掲示板→【その他】→【新型コロナワクチン職域接種の実施について】で詳細確認できます。様々な情報も配信されるので、接種希望される方はチェックしてください。